

国立工芸館石川移転開館記念展Ⅲ 近代工芸と茶の湯のうつわ—四季のしつらい—

Modern Crafts and Tea Utensils: Furnishings in Each Season
The Third of the National Crafts Museum's Grand Opening Exhibitions

2021年4月29日 [木・祝] —7月4日 [日]

人間国宝らが生み出した“茶の湯のうつわ”を中心に約150点を紹介します



本展では、つねに時代を映す鏡のように、新たな考えや造形、そして意匠を見せている個人作家の作品＝「茶の湯のうつわ」と、使い手からの「見立てのうつわ」を、四季の取り合わせの中で紹介し、時代によって移りゆく茶の湯に対する作家の思考や現在（いま）における茶の湯の造形について紹介します。

このたびの展覧会は、工芸館が東京・北の丸公園から石川・金沢に移転して開催する移転開館記念展の第3弾となります。第1弾では近代工芸の名品・優品で工芸館の幅広い工芸コレクションを知っていただく内容でした。続く第2弾は、工芸館のコレクションのもう一つの顔であるデザイン作品にスポットをあてました。そして第3弾は、茶の湯の文化が広く根付いている金沢という土地柄を意識して、テーマを「茶の湯のうつわ」としました。

図版No.1 (手前から) 安藤源一郎《紙胎菊醬風籜茶器》、内田鋼一《白金彩茶盤》、新里明士《光器水指》いずれも2020年

展覧会の見どころ

◆茶の湯のうつわの造形や意匠の広がりをご観覧します。

令和2年度に新しく収蔵した荒川豊蔵(1894-1985)と加藤唐九郎(1897-1985)の志野の茶碗を見比べ、志野というやきものに対するそれぞれの考えを探ります。

◆茶碗を3D鑑賞しよう！

会場に設置するQRコードからアクセスし、スマホにデータをダウンロードすることで、手元で茶碗をぐるぐる回しながらご覧いただけます。

高台も、作品に刻まれたサインも見られます。

◆来館者には仮想の茶事体験を！

展示ケースだけではなく茶室を会場内に設置し、さまざまな茶の湯のうつわを並べます。

◆中田英寿名誉館長セレクション、茶の湯のうつわ！

内田繁デザインの《茶室 受庵》を使用し、工芸館のコレクションの中から中田英寿名誉館長が選んだ茶の湯のうつわをご覧いただきます。



茶の湯にまつわる「表現」と「見立て」のうつわの取り合わせ

国立工芸館のコレクションに加え、個人の所蔵家から借用した作品も展示紹介します

これまで工芸館では、東京・北の丸公園にて2010年に「茶事をめぐって」展、2015年に「近代工芸と茶の湯」展、2016年には「近代工芸と茶の湯Ⅱ」展を開催し、近代工芸の発展・展開の中で作り出された茶の湯に関するうつわを広く紹介してきました。

近代以降、作家と呼ばれる作り手の中には、近世以降の茶の湯のうつわを発想の原点とし、また制作の拠り所として、個を意識した作品づくりを目指した作家が少なくありません。造形や意匠に工夫を凝らした「茶の湯のうつわ」は、個を映し出す「作品」であるとともに、「表現のうつわ」でもあります。

◆茶の湯のうつわを楽しむ

茶碗・水指・茶器・花入など、個々のうつわにスポットをあて、その造形や意匠の広がりを見学します。

例えば、「志野」と呼ばれる茶碗は、桃山時代に岐阜県の東濃地域で焼造されました。近代以降、茶人や数寄者ら使い手だけでなく、作り手にとっても憧れを持って接する対象となり、素材の解明や技法の再現に取り組む活動が多く見受けられるようになります。そして、荒川豊蔵や加藤唐九郎らの活動によって、作家自身の考えを映し出すさまざまな志野の茶碗が作り出されました。

本展では、令和2年度に新しく収蔵した荒川豊蔵(1894-1985)と加藤唐九郎(1897-1985)の志野の茶碗を見比べ、志野というやきものに対するそれぞれの考えを探ります。



図版No.2
荒川豊蔵《志野茶碗 銘 不動》1953年頃



図版No.3
加藤唐九郎《鼠志野茶碗 銘 鬼ガ島》1969年



図版No.4
松田権六《蒔絵松桜文棗》1969年



図版No.5
田口善国《水鏡蒔絵水指》1970年



図版No.6
黒田辰秋《金鎌倉五稜茶器》1980年頃



図版No.7
初代長野埜志《松林の図肩衝釜》1959年



図版No.8
生野祥雲齋《白竹一重切華入 くいな笛》
1967年



図版No.9
三輪休和《菘編笠水指》1975年

◆取り合わせを楽しむ

茶事ではさまざまな茶の湯のうつわが同じ空間に存在します。それも陶磁や漆工、竹工など、素材も分野も多彩です。なかでも茶碗と茶器、あるいはそれらに水指が加わったうつわのセットには、その場を設定した者の考えが垣間見えます。言葉を変えれば、取り合わせにはそれぞれにストーリーがあります。

本来であれば、季節や素材によって取り合わせに制約があるのですが、展覧会の中ではそれを超えて、色や形、雰囲気など、見た目を楽しむ取り合わせを、少しだけ季節を意識しながら楽しんでいただけます。

茶箱について

茶室から離れ、いつでも好きな時、どこでも好きな場所で茶を楽しむ道具のセットとして茶箱があります。その小さな箱の中には、茶碗や茶器、茶筴や茶杓など、茶を点てる道具一式が入っています。

近年、茶道を知らない方でも茶を楽しむ道具として、茶箱が注目されています。あなたならこの小さな箱にどんなうつわを入れて持ち歩きますか？



図版No.10
水見晃堂《唐松砂磨茶箱》1964年

◆現代の「茶の湯のうつわ」

昨年(2020年)、工芸館の移転・開館を記念して、クラウドファンディングによる「12人の工芸・美術作家による新作制作プロジェクト」を行い、「茶の湯」をテーマに、12人の作家に茶碗や水指など、茶の湯に関するうつわを制作していただきました。図版No.1の作品はそのうちの3点です。(プロジェクト詳細→ <https://crowdfunding.artmuseums.go.jp/>)

これらのうつわは移転開館記念展の第1弾で一挙に紹介しましたが、本展では、今度は工芸館のコレクションとともに改めて紹介します。

様々な作家の取り合わせにご期待ください。



<参考> 写真 太田拓実
2020/10/25~2021/1/11
「12人の工芸・美術作家による新作制作プロジェクト」より

開催概要

展覧会名(日)	国立工芸館石川移転開館記念展Ⅲ 近代工芸と茶の湯のうつわ—四季のしつらい—
展覧会名(英)	Modern Crafts and Tea Utensils: Furnishings in Each Season The Third of the National Crafts Museum's Grand Opening Exhibitions
会期	2021年4月29日 [木・祝] - 7月4日 [日]
会場	国立工芸館(東京国立近代美術館工芸館) 〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2
主催	東京国立近代美術館
開館時間	午前9時30分～午後5時30分 ※入館は閉館の30分前まで
休館日	月曜日(ただし5月3日は開館)、5月6日(木)
アクセス	JR金沢駅兼六園口(東口)より バスにて 【北鉄バス】 3番乗り場: 18系統に乗車、「広坂・21世紀美術館(石浦神社前)」下車徒歩7分 7番乗り場: どの系統でも乗車可、 「広坂・21世紀美術館(しいのき迎賓館前)」下車徒歩9分 6番乗り場: 乗車(「柳橋」行を除く)、「出羽町」下車徒歩7分 車にて 北陸自動車道金沢西ICまたは金沢森本ICから20～30分。 近隣に文化施設共用駐車場(無料)があります。
観覧料	一般 500円(400円) 大学生 300円(150円) ※高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方と付添者1名までは無料 ※()内は割引料金 割引対象: 石川県立美術館・金沢21世紀美術館・石川県立歴史博物館・ 石川県立伝統産業工芸館(いしかわ生活工芸ミュージアム)・ 金沢市立中村記念美術館・金沢ふるさと偉人館の主催展覧会入場券半券、 ならびにSAMURAIパスポート(一般のみ)を窓口で提示した方。
イベント	※決まり次第、ホームページにてお知らせいたします。
本展の特記事項	オンラインによる事前予約(日時指定・定員制)を導入します。 また若干数、当日券もご用意しています。 詳細は公式WEB(https://www.momat.go.jp/cg/)でご確認ください。

報道関係の方の
お問合せ先

国立工芸館(東京国立近代美術館工芸館)

展覧会担当/唐澤 広報担当/小島・競

Tel: 076-221-1955(広報直通) E-mail: koge-pr@momat.go.jp

掲載用お問合せ先

Tel: 050-5541-8600(ハローダイヤル)

公式HP

<https://www.momat.go.jp/cg/>

広報用図版 請求票

FAX:076-221-1969 広報担当 行

発信日 年 月 日

<input checked="" type="checkbox"/>	No.	作品
	1	安藤源一郎《紙胎蒔醬風籜茶器》、内田鋼一《白金彩茶壺》、新里明士《光器水指》 いずれも2020年
	2	荒川豊蔵《志野茶壺 銘 不動》1953年頃
	3	加藤唐九郎《鼠志野茶壺 銘 鬼ガ島》1969年
	4	松田権六《蒔絵松桜文壺》1969年
	5	田口善国《水鏡蒔絵水指》1970年
	6	黒田辰秋《金鎌倉五稜茶器》1980年頃
	7	初代長野埜志《松林の図肩衝釜》1959年
	8	生野祥雲齋《白竹一重切華入 くいな笛》1967年
	9	三輪休和《萩編笠水指》1975年
	10	氷見晃堂《唐松砂磨茶箱》1964年

*上記作品(No.1に掲載の作品を含む)はすべて東京国立近代美術館蔵

ご希望の図版の左枠内にを入れてFAXまたはメールでお送りください。

■クレジット

1-5、7、8、10は「撮影:大屋孝雄」 6、9は「撮影:エス・アンド・ティ フォト」と表記してください。

■プレス・イメージ貸出条件

1. 画像は、展覧会広報のみにご使用ください。
2. データを第三者に渡すことは禁じます。使用后、画像データは消去してください。
3. 画像は全図で使用してください。作品部分のトリミング、作品に文字を重ねることはできません。(背景は可)
4. 画像を掲載される際には、貸出時に添付するキャプション・クレジットをご記載ください。
5. 掲載紙(誌)は、1部広報担当宛にご寄贈ください。web サイトの場合は、掲載時にお知らせください。

※画像データ(JPEG)にてお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションもご確認ください。

※掲載前に、校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

御芳名

貴社名

出版物・放送番組・webサイト名など(発行日等):

URL <https://www.>

TEL

FAX

E-MAIL

* 展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券をご用意しております。

プレゼント用招待券を 希望する(5組 10枚) / 希望しない

招待券送付先: 〒

報道関係のお問合せ先

国立工芸館(東京国立近代美術館工芸館) 広報担当/小島・競

TEL:076-221-1955(広報直通) FAX:076-221-1969

E-mail:kogei-pr@momat.go.jp 公式HP:<https://www.momat.go.jp/cg/>